



# 学校安全・防災だより

【第11号】

令和3年10月26日（火）保健体育安全課発行

## 学校事故防止に向けた取組を紹介

### 『「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理』（令和2年3月文部科学省発行）を活用した教職員研修

#### 【石巻市立河北中学校】セーフティプロモーションスクール認証校（R2年度）

石巻市立河北中学校では、事故の未然防止や事故発生時の適切な対応に生かすため、事故防止に関する教職員研修会を実施している。

研修会では、教職員を3つのグループに分け、『「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理』の資料から、

3つの事例

- ①校外での図画工作授業中の交通事故
- ②体育授業中のサッカーゴールポスト転倒
- ③駅伝練習中の熱中症事故

を活用し、その事故発生の要因から、自校の危機管理マニュアルや設備等の点検の在り方、日常の教職員の安全に対する指導等について、協議を行った。



#### 【研修の協議記録を一部抜粋】

各グループから、事故防止についての具体的な意見が出された。

**事故①**

1. 駐車場と活動場所の区別  
・保護者へ駐車スペースの確認
2. 担当教師と複教に、校内外  
複教配置・確認
3. 事前の計画・生徒への指導  
・校外学習について管理職は知れ、  
・生徒は活動場所の範囲を指示

**安全計画 取組**

- 外の器具の点検
- 複教の目での点検

**関係職員**

- 事前指導
- ケガの可能性
- 研修
- 危機管理 (フローチャート)
- トラブル対応

**施設 器具 環境**

- 机に… (固定)
- ケガ防止の施設設備に、  
(新しいものに！)

**グループ③**

- <施設 器具>  
フェン、気象測定器  
水分補給
- <環境>  
気象状況による（15）  
中止の判断必要
- 体調不良  
→ X-ray  
確認記録
- <関係職員>  
子、アスリート等入場では  
は教員必要  
・車の健康チェック  
（点検）  
弱食・熱  
睡眠・体調  
制限設定  
↓  
親と本人の承認書必要
- <校の体制>  
親と本人の承認書必要

#### 【研修後の教職員の感想】

- ・危機管理マニュアルが整備されていても、自分がしっかり理解して活用できているか反省した。
- ・今日の研修会で学んだことを、次年度の危機管理マニュアルの見直しに生かしたい。
- ・当たり前が抜け落ちた時に事故が起こるものと実感した。

※裏面に、『「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理』について、紹介しておりますので、各学校における事故防止に向けて御活用ください。

# 「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書について (令和2年3月文部科学省発行)



[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/anzen/20201001-mxt\\_kyousei02-1289303\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/20201001-mxt_kyousei02-1289303_1.pdf)

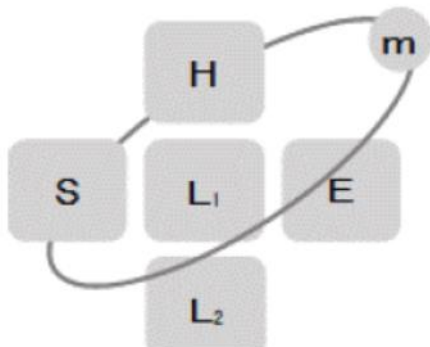
本報告書は、学校事故対応に関する指針（平成28年3月31日文部科学省公表）に基づいて、平成28年4月から令和元年10月までに、文部科学省に提出された学校事故の詳細調査報告書について横断的に整理したものです。

## 【報告書の概要（報告書より一部抜粋して紹介）】

学校管理下において生じる事故は、負傷事故や死亡事故を含めて様々な事故があり、事故が生じる際は、被害を受ける児童生徒や指導する側の学校関係者、場所や時間、周囲の環境など、様々な要因が影響しあうことになる。

本調査では、m-SHELL モデル（東京電力ヒューマンファクターグループが提唱した、ある事故が発生した場合にそれに関わる人や周囲の環境を分析し、事故発生の背後にある要因を分析する手法）を学校事故に当てはめ、中心に事故に直接関係した教員やスタッフを置き、これを当事者L1(Liveware1)とし、m-SHELL の各要素について学校事故を想定した要素に読み替えた。

## m-SHELL モデルの概念図



m-SHELL モデル	m-SHELL モデルの各要素の意味	学校事故に読み替えた場合の各要素の意味
S(Software)	作業手順や作業指示書、作業指示の出し方、教育訓練などのソフトに関する要素。	学校事故を防止するための研修や安全教育、マニュアルや規則、指導計画など。
H(Hardware)	作業上の装置やシステムといったハードに関する要素。	授業や部活動で使用する施設や器具など。
E(Environment)	照明、騒音、温度、湿度といった作業環境に関する要素。	事故発生時の温度や湿度、照明などの物理的環境、その他の事故に影響を与えたと考えられる環境など。
L1(Liveware1)	当事者本人に関する要素。	当該事故で被害児童生徒を直接指導していた教員やスタッフなど。
L2(Liveware2)	当事者周囲の同僚や関係者、相手に関する要素。	被害児童生徒及びその家族、被害児童生徒以外の児童生徒。
m(management)	組織や体制、職場の雰囲気づくり、安全管理などの要素。	事故に対する学校側の指導体制、指導方法、安全管理。

## 事故発生の要因分析（抜粋）

事故	Software	Hardware	Environment	L1 : Liveware1	L2 : Liveware2	management
	学校安全のための研修や安全教育、マニュアルや規則、指導計画等の有無	授業や部活で使用する施設や器具	事故発生時の温度や湿度、照明などの物理的環境や事故に影響を与えたと考えられる環境	当該事故で被害児童生徒を直接指導していた教員やスタッフ	被害児童生徒及びその家族、被害児童生徒以外の児童生徒	事故に対する学校側の指導体制、指導方法、安全管理
【事故①】 中学校ハンドボール部熱中症事故	練習メニューなどを示したマニュアルや指導計画が不十分だった	体を冷却する機器や気象条件を測定する機器は無かった	天候はくもり時々晴れ、気温 29.9℃、湿度 71.3%で不快な状況だった	2人の顧問が指導していたが、生徒一人一人の運動能力の配慮や水分摂取状況を把握していなかった	被害児童生徒は他の部員よりも体力が低下していた	生徒が顧問に対し考えていることや、感じていることを自由に発言できる環境が構築されていなかったようであった
【事故②】 小学校ボール飛び込み事故	指導計画、指導方法の事前確認は無く、指導にあたる教諭に一任していた			別の児童が危険を察知してフラフープの位置変更を申し出たが教諭は無視した		学校運営責任者、及びそれを管理すべき町教育委員会による二重の瑕疵によって事故対応に不適切な処置が助長された
【事故③】 高校サッカー一部活動中の熱中症事故	事前の準備や注意喚起はあったがマニュアルは無く、1年生に配慮した練習計画も無かった		事故前日と事故当日の最高気温(28.8℃)と前週の最高気温を比較すると6℃程度気温が上昇していた	生徒個々への状況確認が不明だった	中学3年の夏以降、受験によりほぼ半年間のブランクがあり、4月にサッカー一部入部後も事故までの間、大半は軽めの練習がほとんどであった	校外事故防止体制、給水体制が不十分だった

## 【参考】 独立行政法人日本スポーツ振興センター「学校事故事例検索データベース」

このデータベースは、当センターが行っている災害共済給付業務において給付した障害・死亡事例を「校種・場合・場所・競技・遊具等」から選択し検索することができますので、学校の事故防止にお役立てください。また、当センターホームページには学校事故防止の参考となる資料等が豊富に掲載されております。 [https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen\\_school/anzen\\_school/tabid/822/Default.aspx](https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/anzen_school/tabid/822/Default.aspx)

